

平成27年11月9日(月)

老球の細道178

たゆまざる 歩みおそろし 名選手

会津バスケットボール協会 室井 富仁

ウサギとカメの寓話がある。ウサギに歩みの鈍さをバカにされたカメは、山の麓までかけっこの勝負を挑んだ。かけっこを始めると予想通りウサギはどんどん先へ行き、とうとうカメには見えなくなった。ウサギは少しカメを待とうと余裕綽々と居眠りを始めた。その間にカメは着実に進み、ウサギが目を覚ましたとき見たものは、山の麓のゴールで大喜びをするカメの姿であった。

過信(自信過剰)して思い上がり油断をすると物事を逃してしまう。また、能力が弱く、歩みが遅くとも、脇道にそれず、着実に真っ直ぐ進み続けることで、能力で優れている者にも勝つことができるという教訓を与えてくれる有名な寓話である。

外国では「リーマスじいやの話」のウサギとカメの寓話がある。こちらもウサギとカメが競走する話であるが、内容は大きく異なり、カメが計略を用いてウサギを騙す話である。

ウサギとカメが駆けっこをすることになる。しかし、カメはウサギが走る道ではなく、そばの藪の中を走ると主張する。ウサギはこれを了承する。カメは家族を動員してコースの要所要所に隠れさせ、ウサギより先行させて走らせる。はじめは先行していることを喜んでたウサギも、いつまでたっても引き離せないののでいらだち、やっとゴールにたどり着くと、すでにカメが待っていた、という話である。

11月3日(火)坂下東小学校で恒例の坂下ミニバスケット合同クリニック第8回を実施した。坂下ミニバスの男女と謹教ミニバス男子、そして坂下中学校の有志が参加した。

集まって来た中学生に1年生のM君がいた。彼は昨年から私のクリニックに参加してくれている小柄で素直な少年である。驚いたことに、いつのまにかものすごく上達していた。昨年まではコーチの二瓶氏や鈴木氏に最も叱られながらプレーしていた子であったが、今回のクリニックでは、すべてのスキルをスムーズにこなすプレーヤーに大変身していた。

中学生になっても、昨年同様私のあらゆるクリニックに参加し、ミニバスのクリニックでも時間が許せば必ず参加して、小学生と一緒に練習する。休まないでやり続けているうちに、いつのまにかものすごく上手になっていた。さらに凄いところは、この子のお母さん、妹も一緒に休まないで参加して支援していることである。頭が下がる。

バスケットボールの上達は練習をするたびに右肩上がりに上達するわけではない。いくら練習しても上達が見えない、逆に下降することなどを経ながら、練習し続けることによってある日突然上達する。その繰り返しである。だから亀のようにやり続けることが大切。

なかなか上達しない、ケガをした、疲れたなどでウサギのように油断して休んでしまうと、せっかく上達する芽がしぼんでしまい、またスタートからやり直しになってしまう。これを繰り返していると、何年たっても上達しないで終わってしまう。

11月3日文化の日に文化勲章を受章したプロゴルファー青木功さん(73歳)は14歳でゴルフを始め、プロ生活51年目を迎えた。国内、海外で輝かしい実績をあげながらも「ゴルフ人生、私は遅咲きだと思っている。花は咲いているかもしれないけど満開じゃない」と今でも向上心を失うことはない。たゆまずに歩み続けた者が大器晩成の花を咲かせ、能力のあるウサギたちの鼻をあかす。